日本循環器看護学会
Japan Association of Cardiovascular Nursing
News Letter

Vol. 12
2019年5月

第16回 日本循環器看護学会学術集会が 2019年11月2日・3日、東京白金で開催されます

Art & Science & Technology 未来の循環器看護を創造する

会長挨拶　眞茅 みゆき（北里大学看護学部看護システム学 教授）

このたび、第16回日本循環器看護学会学術集会を2019年11月2日（土）から3日（日）の2日間にわたり、東京都港区の北里研究所/北里大学プラチナタワーおよび北里大学白金キャンパスにおいて開催することとなりました。皆様のご支援に心より感謝申し上げます。

2018年12月10日、国会において『健康寿命の延伸等を図るための脳卒中、心臓病その他の循環器病に係る対策に関する基本法』が成立いたしました。本法では、国や自治体などに対し、病気の予防に向け、生活習慣の改善の呼びかけや高血圧などの影響を周知するほか、地域にかかわらず、患者を迅速に搬送し、医療機関で必要な措置が受けられる医療体制の整備や、救急救命士や医療関係者らへの研修などに取り組むよう求めています。第16回学術集会を前に、今後の循環器医療が大きく変わる本法が成立したことは、循環器医療に携わる看護職が将来を見据えながら、新たな多様な課題に取り組む責務が与えられたと考えられます。

そこで本学術集会のメインテーマを「Art & Science & Technology 未来の循環器看護を創造する」とし、循環器病予防における看護師の役割は何か、治療主体の入院医療から生活主体の在宅医療まで包括的に看護するためにどうすべきか、多様な病態に専門的に対処するためにはどうすべきか、あらゆる分野、領域で幅広くディスカッションしたいと考えています。

本学術集会では、臨床実践の最前線にいる臨床家、看護研究者、看護管理者など循環器看護に携わる多様な方々にお集まりいただける、循環器看護に関する様々な課題解決の糸口となるセッションを準備したいと考えています。海外招聘講演として、心不全のセルフケア、心電図モニタリングのPractical Standardに関する講演を予定しています。循環器看護のArtを再考するための事例研究に関するセッションや、Technologyと看護との融合のあり方を考えるセッションも企画しています。さらには、循環器病棟・循環器専門病院における看護マネジメントや現任教育の課題についても取り上げます。

本学術集会の会場は東京の中心地、港区白金にあります。新たな変化を求め続ける東京で、循環器看護に携わる場所や立場が異なる方々が様々な課題について議論して頂き、現状をブレイクスルーする、新たな発想や創造が生まれる機会になることを期待しています。多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第16回 日本循環器看護学会学術集会
プログラム

特別講演

- 循環器領域における先駆的治療
  【演者】阿古　潤哉（北里大学医学部循環器内科学）
- Self-Care of Heart Failure: An Update on the State of Science
  【演者】Barbara Riegel（University of Pennsylvania, USA）
  （同時通訳あり）
- Updated Practice Standards for ECG Monitoring: Impact at the Bedside
  【演者】Kristin Sandau（Bethel University, USA）
  （同時通訳あり）
- 行動経済学の観点からみた意思決定支援
  【演者】平井　啓（大阪大学大学院人間科学研究科）

特別企画

- 健康寿命の延伸を目指すために循環器看護に求められる役割：
  脳卒中・循環器病対策基本法の成立を受けて

シンポジウム

- 心臓血管外科のハートチームにおける看護師の役割
- 循環器疾患患者・家族の意思決定支援
- 循環器看護における知識創造
- 循環器看護における若手研究者への期待

プログラム、およびタイトルは予定であり、変更になる可能性があります。
最新の情報については、以下の学術集会サイトをご参照ください。
http://jacn16.umin.jp/index.html

第16回 日本循環器看護学会学術集会
プログラム

パネルディスカッション

- 循環器看護にとっての特定行為を考える
- 循環器領域における中堅看護師教育を考える
- 循環器看護と新たなテクノロジーの融合
- 循環器医療における看護外来 －現在から未来へ－
- 循環器病棟、循環器専門病院における新たな看護マネジメント戦略

教育講演

- 循環器疾患患者の減塩指導：どう実践するか
- 事例研究がもたらす看護実践の知
- 認知症患者とのコミュニケーション
- Onco-Cardiology：看護師が知っておくべき基礎知識
- 心不全の薬物治療：現在と未来

ワークショップ

- 循環器領域における倫理的問題を考える
- 心不全におけるアドバンス・ケア・プランニングを考える
- その人らしい看護に生かす！フィジカルアセスメント

委員会セッション

- 学術委員会
- 学会誌編集委員会

プログラム、およびタイトルは予定であり、変更になる可能性があります。
最新の情報については、以下の学術集会サイトをご参照ください。
http://jacn16.umin.jp/index.html

Hot Topic 1
循環器看護 – 研究編 –

2018年度　学会誌･優秀論文賞

山﨑優介，斜森亜沙子，近森さつき (2016)．心不全患者に対する退院支援システムの効果．
日本循環器看護学会誌，12(1)26～32.

地方独立行政法人広島市立病院機構
広島市立安佐市民病院

山﨑　優介

この度「心不全患者に対する退院支援システムの効果」というテーマで優秀論文賞をいただきました。このような名誉ある賞を頂き、支援して頂いた上司やスタッフ、学会誌編集委員会の方々への感謝の気持ちで一杯です。

私が行った研究は、心不全患者様に対する退院支援システムの効果を、システム構築前と後で後ろ向きにデータ比較したものです。循環器病棟で働く中で、心不全患者様に対して退院支援が適切になされないことに疑問を抱き、退院支援をシステムとして構築しました。そして、どのような効果があったのかを実際に　調べたいと思ったのが、この研究を行うきっかけでした。心不全患者様により良い看護を！という願いから始めた本取り組みが、結果として　再入院率の減少につながったという結果がでた時は、本当に嬉しかったです。

実は私は今回の研究に取り掛かるまで、きちんと研究を行ったことがありませんでした。そのため、研究計画書から論文作成まで、すべての行程で大変苦労しました。

また、臨床看護師として勤務しながらであったため、勤務の合間や終了後に調査を行い、大変な時間と労力が必要でした。しかし、苦労した分、論文が出来上がり、採択された時の喜びは今でも鮮明に思い出されます。

看護研究や論文投稿は、大学教員などの研究に長けた方のみが行うことという印象があるかもしれませんが、私はこの研究を通して、臨床から生まれる研究にも非常に大きな価値があるということがわかりました。これからも臨床看護師として勤務しながら、臨床ならではの視点で看護研究を続けていきたいと思います。

Hot Topic 2
循環器看護 – 実践編 –

慢性心不全認定看護師の活動

JA長野厚生連
佐久総合病院・佐久医療センター
青木　芳幸

当院は高度専門医療から在宅医療まで幅広く地域を支援する地域密着型の病院です。私は2014年から慢性心不全看護認定看護師として活動を始め、現在は循環器病棟での勤務を基本に「心不全看護専門外来」や「退院後在宅訪問指導」へも積極的に取り組んでいます。昨年の実績としては、外来での面談回数は約400回、退院後の訪問指導は約100回となります。共通した成果として、セルフケア能力の向上や増悪の早期発見により、再入院だけでなく、入院した場合でも在院日数の短縮などが効果として得られています。

新たな取り組みとしては、2017年から強心薬依存で入院を余儀なくされている患者を対象に、在宅での強心薬持続投与を地域医療部門と共同で支援しています。現在までに６人の患者が帰宅することができ、患者/家族の言葉からもQOL向上に大変有効な支援であると実感しています。在宅での強心薬投与は保険診療の適応ではなく、自宅療養を望む患者の足かせにもなっていますが、患者/家族が望めば在宅でも安全に療養することがきるのも事実です。

今後も心不全患者の増加が予測されており、医療の質、効率、QOL等を向上させる複合的なケアを関連職一丸となり構築していくことが重要であると考えます。また、ケアの専門性をより高めるために、心不全看護認定看護師は特定行為研修の受講、スタッフナースもステップアップとして心不全療養指導士等へも積極的にチャレンジする事でケアの可能性は更に広がると思います。今後も患者の満足や医療の質向上につながるケアを多職種、多施設間で模索、検討しながら本邦に合った心不全ケアを築いていければと思います。

リレー寄稿

人生100年時代における循環器看護の未来

川崎医科大学総合医療センター

山田　佐登美

厚生労働省が2018年9月14日に出したPress Releaseによると100歳以上の高齢者数は、同年9月1日時点で69,785人（前年比＋2,014人）で、うち女性は約88%ということです。そして、国内最高年齢は115歳（女性）だそうです。人口減少が進む中で2065年には、約2.6人に1人が65歳以上、約4人に1人が75歳以上となる社会は、いったいどんな社会なのでしょう。

疾病構造では、がん等の悪性腫瘍よりも脳・心・腎等の動脈硬化に関与する疾病の方が伸び率は高くなります。また、骨折や肺炎、認知症患者も増加します。しかも、多くは多疾患有病者です。循環器疾患では心不全パンデミックが予測されています。

増え続ける医療・介護ニーズに応じた医療・介護サービスは可能でしょうか？何分少子化です。労働人口の減少は、需要と供給のアンバランスを助長し、財務的な視点では税や保険料の確保を困難にします。

一方で、2018年6月に「働き方改革関連法」が成立し、10月には厚生労働省から労働時間等設定改善指針が告示されました。これによって2019年4月から暫時、時間外労働の罰則付き上限規制や年休5日間の取得義務化、勤務間インターバルや夜勤回数の規制が始まります。もちろん医師も例外ではありません。医師への適用は2024年を予定しており、医師の働き方は大きく変容します。おそらく「主治医機能」は今より脆弱化すると思います。交替制が主流になったとき、ベッドサイドにいる看護師は患者さんの全体像を捉えながら、アセスメントし、何を必要としているか提案できなければ患者の安全・安心は保証できなくなると危惧します。医療安全対策等でよく言われる「I-SBAR」の特にRecommendationです。

これからの未来は、大変予測が困難とも言われています。AI（人工頭脳）の進歩は人間の仕事を変えるでしょうし、AIが人間を超える、人間がAIを制御できなくなることもあり得るでしょう。医療サービスにおいてもルチーン業務はロボット等にどんどん置き換わっていくでしょう。看護は、AIにとって代われるのか代替不能なのか考えてみると、より複雑な仕事だけが残っていくと思います。

長い人生を幸福に、納得できるように歩んでいくには、変化に柔軟に適応できる力や人とうまくつながっていく力等、無形の資産の蓄積が必要です。このような人生100年時代において循環器看護を実践する看護師はどうあるべきかという問いに、一つの解が2020年度から始まる新たな認定看護師制度（案）にあります。慢性心不全看護分野は、心不全看護分野と名称を改め、心不全看護認定看護師の役割として、「あらゆる療養の場で、心不全患者とその家族に対して高い臨床推論力と病態判断力に基づいた急性　増悪・重症化回避のための支援、症状緩和とQOLを高める」等が示されています。治療方針ありきではなく、患者さんの意向を尊重した全人的なケアをめざして、「学び直し」です。人生100年となれば、何度もやり直しがあり、そのための学び直しがあって当たり前です。何歳になっても楽しくRe-creationできるといいなと思っています。

セミナー案内

第36回　日本循環器看護学会教育セミナー（初級編）

開催日時　2019年6月15日（土）　9：50～15：30
開催場所　仙台市情報・産業プラザ　ネットU　セミナールーム
　　仙台市青葉区中央1-3-1　（仙台駅より徒歩2分）
テーマ　明日からの看護に自信が持てる！
知っておきたい循環器の知識あれこれ
定員　先着140名（定員になり次第締切）
参加費　会員：3000円　非会員：6000円
応募方法　日本循環器看護学会HP（http://www.jacn.jp）から　応募フォームあり

プログラム

講演１　医師はここを診ている
　循環器の画像診断と検査データ
及川雅啓 先生　（福島県立医科大学 循環器内科）
講演２　薬剤師から学ぶ
　循環器の薬について
佐々木康太 先生　（東北医科薬科大学病院 薬剤師）
講演３　救急ナースから学ぶ
　救急場面における循環器急変予測とフィジカルアセスメント
山崎早苗 先生　（東海大学医学部付属病院 救急看護認定看護師 特定看護師）
講演４　デバイスナースから学ぶ
　不整脈とその対応
長町千里 先生
（公益財団法人日本心臓血圧研究振興会 榊原記念クリニック　看護師長）

司会：　瀬戸初江 先生
（東北医科薬科大学病院 看護部）

編集後記

　日本循環器看護学会ニュースレター通算12号をお届けします。本号は「令和」初の発刊となります。新しい元号が始まるわくわく感とともに、循環器看護に関する最新のトピックスをお届けできていれば幸いです。
ニュースレターに掲載すべき内容がございましたら、ぜひ下記にご連絡ください。

日本循環器看護学会　広報委員会委員一同
連絡先：jacn@asas-mail.jp
（日本循環器看護学会事務局）